

武士の絵画

— 中国絵画の受容と文人精神の展開 —

杉本欣久（東北大学大学院准教授） 著

本体価格 15,000 円 + 税

A 5 判上製函入 本文 594 頁 口絵 8 頁 ISBN 978-4-8055-0882-4 C3071 2020 年 10 月刊行

江戸時代に生きた画家たちが憧憬した

「文人」の精神や生き方を捉え、その絵画の成立背景を明らかにする。



鷹見泉石像 渡辺華山筆

明治の世となって西洋の哲学や思想が流入したことに加え、二十世紀半ばの大東亜戦争（太平洋戦争）敗北を承け、江戸時代における思潮の中心であった儒教的価値観は、結果的に前近代の悪しき身分制や封建主義の象徴と見做されるにいたった。その風潮は現在に至るまで影響を及ぼし、江戸時代の美術を論じるにあたって、儒教的な解釈を必要とする作品に十分な考察が加えられないばかりでなく、場合によっては意図的に無視したり、その影響を矮小化してとらえる傾向すら存在している。歴史的事実を明らかにするために必要なのはイデオロギーでなく、当時において当たり前存在した価値観をしっかりと見つめることであり、それを理解すべく努めなければならないのは改めて言うまでもない。

このような状況を江戸時代に関する美術史研究の根本問題ととらえ、すでに我々からは縁遠くなってしまった儒教的価値観に着目し、十八世紀から十九世紀という時代をとらえ直せば、どのような歴史観が構築できるかとの観点に立ち、これまでに執筆した論考から数本を選んで本書にまとめることとした。

（「序」より抜粋）

序

I 徳川吉宗と徂徠学派の絵画観

はじめに

第一章 八代將軍・徳川吉宗の

中国絵画受容と狩野派

1 吉宗と中国絵画

2 中国絵画の献上と遺産わけ

3 吉宗と幕府御用絵師・狩野派

4 吉宗と侍臣の絵画

5 吉宗の時代に至る中国絵画の輸入

第二章 荻生徂徠の絵画観と文人精神の受容

1 徂徠周辺の中国絵画蒐集

— 本多忠統と越智雲夢 —

2 徂徠と萩藩儒学者・佐々木縮往

— 書簡にみる絵画観 —

3 佐々木縮往の作画

4 徂徠の詩文観—絵画観とともにあるもの—

第三章 服部南郭の絵画観と文人精神の受容

1 南郭の作画と雪舟

2 南郭と中国絵画の摸写

3 南郭の絵画観と本多忠統

第四章 増上寺の学僧・忍海の作画と復古思想

1 徂徠学派と増上寺

2 忍海とその師・敬首

3 関西遊歴と「当麻曼陀羅」

4 忍海の諸文芸

5 服部南郭との交流

6 忍海の作画

7 忍海を継ぐ者—恵頓と耆山—

おわりに

II 武士の絵画と文人精神の展開

— 鑑戒と暢神 —

はじめに

第一章 三河田原藩士・渡辺崋山と肖像画

第一節 崋山の生涯とその思想

第二節 崋山の肖像画

第三節 崋山の実学思想と清初の考証学者・顧炎武

第二章 美作津山藩士・関口雪翁と墨竹画

第一節 雪翁の生涯と江戸における交流

第二節 雪翁の墨竹画

第三章 豊後岡藩士・田能村竹田と山水画

第一節 竹田の生涯とその思想

第二節 竹田の山水画

第三節 竹田の文芸観と「情」

第四節 竹田における「隠居」と「隠逸」

第四章 備中鴨方藩士・浦上玉堂と山水画

第一節 玉堂の生涯と江戸における交流

第二節 玉堂の山水画

第三節 玉堂の文芸観と「楽」の復興

第四節 玉堂における「脱藩」と遊歴

おわりに

結

図版出典／初出一覧／索引

著者略歴

杉本欣久（すぎもと・よしひさ）

東北大学大学院文学研究科准教授。博士（文学）。

一九七三年、京都市生まれ。

一九九八年三月、早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻修士課程修了。同年四月より、黒川古文化研究所に勤務。二〇〇九年三月、早稲田大学にて博士（文学）の学位を取得。

二〇一八年四月より、東北大学大学院文学研究科の准教授として日本近世絵画史を研究。

関連書籍

江戸期実景図の研究

鶴岡明美 著

本体価 15,000 円＋税

谷文晁「公余探勝図」を端緒とする江戸時代後期に盛行した実景表現による作品群について、諸作例の作風の特徴を分析し、描き続けられ受容されるに至った背景について、歴史的事象との関連性を明示して史的考察を試みた研究成果。

A5 判上製函入 本文 432 頁 カラー口絵 16 頁
挿図 253 点 ISBN 978-4-8055-0686-8

京狩野の研究

脇坂 淳 著

本体価 28,000 円＋税

室町時代から幕末まで、常に画壇に君臨し続けた狩野派のうち、京都に留まり公家や寺院の御用絵師として京都を中心に活躍した一派を京狩野と呼んでいる。近世京都画壇 250 年の流れの中で京狩野の画態と営為を明確にし、異なる京狩野の体系的研究の公刊。

B5 判上製函入 本文 402 頁 カラー口絵 8 頁
ISBN 978-4-8055-0639-4

近世武家集団と都市・建築

藤川昌樹 著

本体価 9,500 円＋税

町人たちが居住する町人地・町・町屋敷に集中する傾向にあったこれまでの都市史研究を補うべく、慶長～寛永期の京都に展開された武家集団の居住の場の性格を解明することを通じて、近世武家集団の居住の特質について考察し、当該期の都市・建築像の理解に新たな知見を加えようとするものである。

A5 判上製函入 本文 304 頁 挿図 43 点【在庫僅少】
ISBN 978-4-8055-0411-6

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い